

関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS



Sep.2010 No. **40**

「横濱の新名物を作ろう！」プロジェクト報告



P r o j e c t R e p o r t

関東学院大学と株式会社崎陽軒の産学共同プロジェクトで商品開発を進めていた横濱の新名物「横濱新月餅」もちっ子ひょうちゃん」がついに完成、2010年3月29日にKGU関内メディアセンターで完成披露記者会見が開催されました。関東学院大学からは大野功二学長、経済学部小山厳也准教授、発案者の学生4名（浅見洋子さん、鷺山充さん、清常大輔さん、西直哉さん）、崎陽軒からは野並直文社長、足立好康シウマイ点心事業部長、新製品開発室の尾島ゆう氏が記者会見に臨みました。20社を超えるマスコミ記者が参集する中、司会者で本プロジェクトの企画事務局を務めた小山准教授から会見者の紹介があり、その後、大野学長、野並社長が挨拶、横濱の新名物として多くの方々に末永く愛される商品となることを願って、発売開始を宣言しました。続いて学生から「もちっ子ひょうちゃん」の誕生秘話、コンセプトやこだわり、命名の由来が紹介されました。「ひょうちゃん」は崎陽軒のシウマイの箱中に封入されている磁器製しよう油入れの愛称で、同社のシンボルになっています。「もちっ子」は「マツ子」のもじりで、その2つを組み合わせて名づけたと語った発案者の一人浅見さんは「満足のいくものができたと思う」と自信を見せました。

「もちっ子ひょうちゃん」は、月に見立てて焼き上げた中国菓子「月餅」を日本人好みにアレンジしたもので、外皮は白くもちっと、中はとろっとした新食感の月餅です。中の餡には、横浜発祥のアイスクリームの風味をイメージしたバニラクリームと小豆餡が使用

されています。

「もちっ子ひょうちゃん」は会場の記者の方々にも手渡され、その反応に緊張する学生たちの表情が印象的でした。会見終了後学生たちは会見場近くの共同通信社、読売新聞社や朝日新聞社などマスコミ各社に挨拶にまわり、「もちっ子ひょうちゃん」を届けました。学生たちは崎陽軒店舗も訪問、店頭で並ぶ自分たちの製品を見て感無量の様子でした。



「横濱新月餅 もちっ子ひょうちゃん」は1個入150円…6個入880円で販売され、順調に売れ行きを伸ばしています。

なお発売に先駆けた3月24日、パシフィコ横浜国立大ホールで行われた関東学院大学卒業式学位授与式で、崎陽軒さんのご厚意により販売前の「もちっ子ひょうちゃん」が卒業生と全来場者に配布され、大変好評でした。

「横濱の新名物を作ろう！」

本プロジェクトは、横浜開港150周年を記念して2009年に学院創立

- 1 産学共同企画特集 1
崎陽軒×関東学院大学「横濱の新名物を作ろう！」
- 3 産学共同企画特集 2
げんべい商店×人間環境学部
「げんべいビーチサンダル・デザイン・コンテスト」
- 5 海と関東学院 ～大学工学部建築学科～
「鎌倉材木座海岸ビーチハウスプロジェクト」
- 7 海と関東学院 ～ウィンドサーフィン部・ヨット部～
「オリブカップ in 材木座」
- 9 建学の精神を生きる「卒業生に聞く」
神奈川県セーリング連盟会長 貝道昭氏
- 11 校長就任挨拶
六浦中学校・高等学校 校長 河合輝一郎
- 12 生涯学習センター講座紹介
講座潜入取材～世界を旅しよう！
プロが教える世界の魅力「JTBコラボ講座」～
- 13 役員・教職員人事
- 15 関東学院各校NEWS
- 21 「OliveMap」掲載店舗紹介
01 牛鍋元祖 太田なわのれん
02 葉山 日影茶屋
- 22 「OliveMap」アクセス方法／
「がんばれ！受験生サイト」リニューアル

【カバー・ストーリー】

材木座海岸

関東学院は横浜・小田原の海はもちろんのこと、湘南（鎌倉・逗子・葉山）からも近いキャンパスです。ここ鎌倉材木座海岸は、毎年多くの海水浴客で賑わいを見せており本学工学部建築学科の学生が設計・施工するビーチハウス（海の家）にも、人気が集まっています。

☆関東学院学報は今回第40号より紙面をA4サイズとし、よりワイドに学院の動きをお伝えします。

125周年を迎えた関東学院と2008年に創業100周年を迎えた崎陽軒がタッグを組んだものです。テーマは点心中、関東学院大学の学生から企画案を公募し、学生が提案したアイデアをもとに崎陽軒が商品を開発して「横濱の新名物」を創り出すことを目的に始まりました。

学生から寄せられた企画は全5学部より計59件。「揚花（新感覚ドーナツ）」「黒船 黒船に見立てた春巻き」「ハマチマキ（家系ラーメンと餅米を使ったチマキ）」「横濱あいつ月餅 もちっ子ひょうちゃん（外はもちっと、中はとろっとした食感のアイス月餅）」「3色バオズ（中華まんをアレンジ）」「春浜ロール（新感覚の蒸し春巻き）」の6企画が1次審査を通過しました。1次審査通過者は崎陽軒の工場見学を行い、崎陽軒の歴史や企業理念、生産工程を確認し、企画案をブラッシュアップ（磨き上げ）した上で、昨年11月の最終プレゼンテーション審査会に臨みました。各チームの熱の入ったプレゼンテーションを受け、本学の齊藤毅憲経済学部教授、崎陽軒の野並直



文社長など6人の審査委員は厳選な審査を行いました。結果、「月餅にアイスを融合させた斬新なアイデア」が圧倒的な評価を得て、最優秀賞には経済学部学生4人の発案である「横濱あいつ月餅 もちっ子ひょうちゃん」が選ばれました。（崎陽軒にアイスクリームの製造免許がないため、アイスクリームの風味を再現することとなりました。）

11月30日から製品化に向けて最優秀受賞グループと崎陽軒の企画会議が始まりました。1回目は商品コンセプトや発売までのスケジュールの確認、受賞グループと崎陽軒サイドの今後の役割などを中心に打ち合わせしました。通常、崎陽軒の新製品開発スケジュールは最低でも6カ月ほどかかります。しかし、今回は4年生が卒業する前の2010年3月商品化をめざします。開発期間は約3カ月、厳しいスケジュールの中での取り組みのため、お互いが力を合わせて作業を進めなければなりません。2回目の打ち合わせからは崎陽軒の新製品開発担当者も打ち合わせに参加、発案者の学生がイメージする「外側はもちっと、中の餡はバニラクリームの」とろっとした食感に「だわり、横浜発祥のアイスクリームの風味を再現した新感覚の点心中心」を実現するための苦闘が始まりました。3回目、4回目と食感を追求する一方で、パッケージデザインや素材、販売促進方法などにも学生のアイデアが求められ、随所に彼らの斬新な視点が活かされました。3月2日の最終

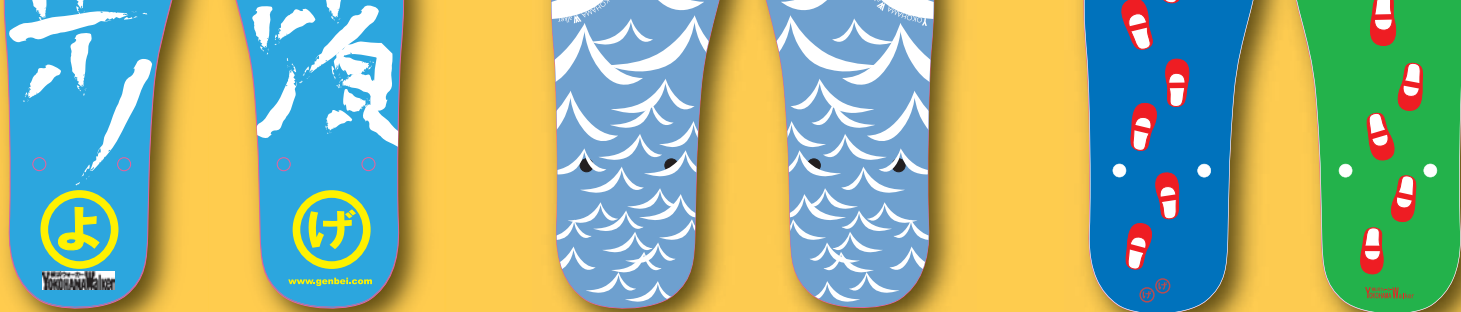
打ち合わせでは、最後の2種類の試食を行いました。皮にタピオカを入れたり、もち粉を増やしたりするなど何度も試食と話し合いを繰り返して、学生たちがこだわっていた食感がついに実現。「諦めずに頑張つて良かった」という言葉に実感がこもっていました。

今回のプロジェクト参加は学生たちにとって素晴らしい体験になりました。自分たちでリサーチしてアイデアを練り、さらにプレゼンテーション、商品開発の現場で働く人々とのやりとりを通じ

て結果を導き出し、商品という「カタチ」として未来に残る仕事を完遂しました。視野は大きく広がり、今まで気づかなかった自分の能力の存在に気づくこともできたのではないのでしょうか。横浜に生まれ、ともに歩み発展してきた崎陽軒と関東学院にとっても、地域の核として絆が深まったプロジェクトでした。

関係者各位の想いがつまった「もちっ子ひょうちゃん」が横濱の新名物として定着するよう、末永くみんなで応援していきます。





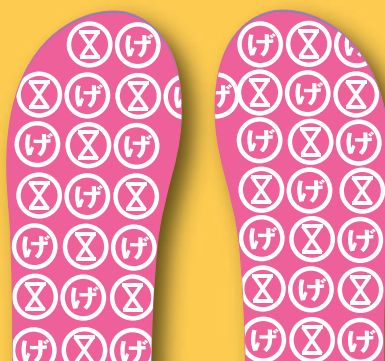
× 関東学院大学

げんべい商店 × 関東学院大学 人間環境学部共同プロジェクト

「げんべい ビーチサンダル・ デザイン・コンテスト」 報告



Project Report



学生と地元企業、住民が一体で
創りあげた「ビーチサンダル」

そうこう横浜店8階のリゾートパラダイスのブースには、カラフルなビーチサンダルのデザインが並んでいます。関東学院大学人間環境デザイン学科の学生たちがデザインした「げんべいビーチサンダル」です。デパートに来店した人々は興味深そうにデザインをながめ、サンダルの柄や色の品定めをしています。店員さんのお話によれば、学生がデザインした斬新でポップな柄が若い人たちの間で非常に人気となり6月29日の販売開始以来、売れ行きも上々だったそうです。

このビーチサンダルの製品化は、本学人間環境学部人間環境デザイン学科と葉山町のビーチサンダル専門店「げんべい商店」との連携によるプロジェクト「げんべいビーチサンダルデザイン・コンテスト」から実現しました。本プロジェクトは、人間環境デザイン学科の学生から横浜の3つの企業、(株)角川マーケ



ティング「横浜ウォーカー」、「横浜F・マリノス」(株)そこう西武「そこう横浜店」をイメージした「ビーチサンダルのデザイン画」を募集することからスタート、2カ月半の間に72点のデザイン画が集まりました。そのデザイン画を4月20日～5月10日まで「そこう横浜店」に展示し、来店されたお客様に好きなデザインを選んでもいただくコンテストを開催しました。その結果、選ばれた8つの優秀作品は「げんべい商店」によって製品化されました。本企画は地元を愛する学生と地元企業のコラボレーション、お客様にも投票していただくことで、地元が一体となった初の試みとなりました。神奈川県には日本でも有数のビーチが幾つもあり、海岸を利用するサーファーや海水浴客など多くの人々がビーチサンダルを愛用しています。今年の夏は湘南を中心としたビーチで、若々しいデザインの「げんべいビーチサンダル」が海岸をカラフルに彩ることでしょう。



左:人間環境学部人間環境デザイン学科3年、庭山夕貴さん
右:同3年、芳賀沙織さん 中央:げんべい商店中島広行氏

インターンシップでげんべい商店を選んだ理由

庭山●数あるインターンシップ先の中で、デザインができる受け入れ先が3,4社しかなく、その中で、げんべい商店のインターンシップ内容が楽しそうなものだったため。

芳賀●所属する人間環境学部で行われたげんべい商店とのコラボレーションによるビーチサンダルデザインコンテストに参加して、自分がデザインした作品が実際に商品化されたこともあり、興味を持ったため。

サンダルをデザインした感想

庭山●デザイン等1連の作業には3日くらいかかりました。

芳賀●ひらめきや直感を大事にしてデザインをしました。

庭山・芳賀●(ちょうど試験期間中ということもあり、)試験、課題提出と重なり、スケジュール管理の大切さを学びました。しかし、実際に店舗に並んでいるのを見て、達成感もありました。

I n t e r n s h i p R e p o r t

オープンキャンパス 2010 ビーチサンダル・ デザイン・コンテスト

開東学院大学人間環境学部と葉山町のビーチサンダル専門店「げんべい商店」共同プロジェクトの第2弾として、「オープンキャンパス2010 ビーチサンダルデザイン・コンテスト」が行われました。

今回のコンテストは、人間環境学部の学生を対象に、「環境にやさしい」「エコロジー」等、本学の人間環境学部をイメージさせるデザインをテーマに、開東学院大学とげんべい商店のロゴマークを入れること等をデザイン条件として行われました。

応募された全18作品が、7月31日に行われた人間環境学部のオープンキャンパスの際、金沢八景(室の木)キャンパス「エテルニテ」4階学生食堂の一角に展示され、高校生をはじめとする来場者による投票が行われました。

今回、投票で1位になったデ



1位になった武田さんの作品

色々な方からアドバイスを頂きながらのデザイン完成となりました。

協力して頂いたみなさんありがとうございます

作っているときや案を考えているときは楽しかったです。

1.本コンテストに応募しようと思った動機
私自身、デザインをすることが好きなのでこの機会に、と思ったのと、学生生活をより充実したものになるように、と思ったので応募しました。

2.サンダルをデザインしてみた感想
作っているときや案を考えているときは楽しかったです。

3.工夫した点/苦労した点
工夫した点…よくみると鳥や女の子の木のモチーフになっています。タイトルのメッセージをめいばい含ませました。

授業の課題や試験との両立が厳しかったことに加えて、多くの学生が描画ソフトの「イラストレーター」をほとんど使っていないからだと考えました。

その職員との会話がきっかけで、ソフトの操作ができるようになるために、投票告

サングラデザインコンテスト(そごう横浜店開催分)のデザインを応募した際に、2年生の応募状況が芳しくないのはなぜかと思っかを事務局の方に尋ねられました。

本コンテストにスタッフとして携わった、人間環境デザイン学科2年牧野新太郎さんのコメント

4月に行われたビーチ

とにかくびっくり!嬉しいです!ありがとうございます

とございます。履いているとき、いつもの歩を自然とエコにちょっとだけ意識してみて頂けたら嬉しいです

5.実際に製品化され配付されることについて一言

デザイン案を考えた時間、作業した時間をあわせると約4時間です。

4.デザイン完成までに要した時間

「私たち」をどうシンプルにデザインするか、さらにかわいらしさも出したかったので、それを最大に生かしたデザインを表現することに苦労しました。

3.工夫した点/苦労した点
工夫した点…よくみると鳥や女の子の木のモチーフになっています。タイトルのメッセージをめいばい含ませました。

Joint Project "Genbei Beach Sandals Design Contest"

The "Genbei Beach Sandals Design Contest" was jointly organized by Kanto Gakuin University and Genbei Shoten, a store specializing in beach sandals. Design drawings of beach sandals proposed by students of the Department of Human Environmental Design, based on the images of three companies located in Yokohama, were displayed at a specially set up display area in Yokohama Sogo Department Store from April 20. The best designs were selected by votes and nine were commercialized. The products have been available on the 5th floor of the department store from June 29.

最初は本を見ながらの制作で苦労しましたが、今ではだいぶ操作も慣れてきました。

そごう横浜店で開催されたコンテストは職員が中心に行っていました。今後、同様のコラボレーション企画を学生メインで行っていき、企画段階から携わっていきたいと思います。





Beach
House
Project

鎌倉 材木座海岸

ビーチハウスプロジェクト

[関東学院大学]



プロジェクトの
概要

建築学科の授業で 原寸のビーチハウスを建設

ビーチハウスプロジェクトは建築学科2年生の選択科目「デザインスタジオI」の課題です。学生たちが建築各分野の専門教員たちと協働して鎌倉材木座海岸にビーチハウスを実際に建設しています。企画から設計、施工、使用から解体、資材保管、次年度の再利用まで一連の流れを体験することによって、学生たちは模型とは違った1/1(原寸)の建物を作ることの難しさ、楽しさを体感します。海に近い関東学院ならではの授業で、潮風の中、常に創造的な姿勢で「ものづくり」をすることの大切さを学んでいます。

リアルなものに触れて、 実物から学ぶ機会を！

「建築の目的は実際に人々が使う建物をつくることだから構築でも解体でも良いからリアルなものに触れて、実物から学ぶことが重要です」と言う関先生。自身が建築学科の学生だった当時から実際の建物をつくる機会がなかったことに疑問を感じていたそうです。現在も建築学科の学生は理論に比して実体験や具体的知識に触れる機会が比較的に少ない現状を打破したいとのこと。

「建築は理論だけではないのでは？」

2004年から始まった「デザインスタジオI」の授業は学生たちにとって生きた教材から学ぶ良い機会になっています。教室は材木座海岸のビーチ、そこに原寸のビーチハウスを設計・施工するという授業は、毎年解体・保存して新たなものを創りながら継続し、今年で7年目を迎えました。今回のデザインは、広場のような四角い中庭の上に白いテントが軽快に架かる「ビーチスクエア」。8月には鎌倉市御成町のギャラリー「ヨコ」で作品展示会を開催。「デザインスタジオI」と2007年から行ってきた「デザインスタジオ5b」の鎌倉ビーチプロジェクトの成果を発表、大きな反響を呼びました。

関先生の今後の抱負は「ひとつのビーチハウスを作る

Student's Interview



学生インタビュー

関東学院大学建築学科2年
杉浦正佳さん・渡辺 光さん・飯島博史さん

実体験だからこそわかる難しさや喜び
「実際に建物をつくる時は2mmの誤差でも許されない、ごまかしがきかないと思った」「掘り炬燵風のベンチを提案し採用されて嬉しかった」「自分たちで全部つくったので達成感があった」実体験だからこそわかる難しさや喜び、学生たちは自分たちがつくった建物に集う人々を見ながら、充実感で一杯でした。



2010年のビーチハウスをイメージした
「ビーチハウス×げんべいサンダル」も誕生!

Owner Interview

オーナーインタビュー

ヴィラ・デル・ソル バイ バンビーニ オーナー 浅川 通彦氏

いいですよ、失敗しても。どうせ2ヵ月で壊すんだから。
「現場で学ぶことこそ本当の教育だよ」と豪快に言い放つヴィラ・デル・ソルの浅川さん。このオーナーのご協力があったからこそ「デザインスタジオI」の授業が実現しました。学生の考える斬新なデザインは他の海の家とは一線を画しておりお客さまの評判も上々、毎年違う形で現れるヴィラ・デル・ソルに関心が集まっています。



Kanto Gakuin University Beach House Project Construction of a full-scale beach house on Zaimokuza Beach as a class project

Students of the "Design Studio I," an elective class for second-year students of the Department of Architecture, constructed a full-scale beach house on Zaimokuza Beach in Kamakura. The construction was carried out in cooperation with specialists in various architectural fields. The completed beach house will be operated by Villa Del Sol. The "Beach House Project" marked its 7th anniversary this year since its beginning in 2004.



関東学院大学工学部建築学科
教授 関 和明

だけにとどまらず、海岸全体をつなぎ、この活動を通じて広く海外と交流していきたい」とのこと。既にロシアの大学との交流が進行中です。

部 オリ in 座 杯 木 座 部 杯 木 座



C u p i n Z A I M O K U Z A

大学ウィンドサーフィン部主催の大会で 夏の湘南に関東学院をアピール!

2010年7月25日(日)、関東学院大学ウィンドサーフィン部主催で「オリブカップ in 材木座」と銘打ったウィンドサーフィン大会が開催され、本学をはじめ早稲田大学、明治大学、東京海洋大学、関西からは同志社大学など多くの大学生と、小学生から日本代表選手まで約80名が参加しました。鎌倉材木座海岸の沖合いに浮かぶ色とりどりのセイル、それが青い空と青い海に映えて壮観です。

海岸線がゆるく長く湾曲する鎌倉の海岸、そこに隣接する由比ガ浜海岸と材木座海岸の浜辺は海水浴客で大変な賑わいを見せています。そこへ突如現れた80ものウィンドサーフィンを海水浴に訪れていた人たちは興味深そうに見物していました。ウィンドサーフィンの面白さを広くアピールし、競技人口の増加に寄与したいという大会の狙いはまさにここににあります。泳いだり浜辺に寝そべったりしながら競技を眺める若者たちの中から、次代のウィンドサーファーが誕生するかもしれません。

通常、真夏の湘南で大会を実施するというのは非常に困難ですが、漁業組合をはじめ多くの関係者のご協力を得て開催することが出来ました。また、本学建築学科の学生が設計施工したビーチハウスを閉会式会場として使用し、本学が地域と密着した存在だということ、地元の皆さんに強くアピールすることもできました。

競技は午前9時にスタートして午後4時で終了、4時半からビーチハウスで表彰式が行われました。ビギナークラス、オープンクラス、テクノクラスに分かれての結果発表、レディスとメンズそれぞれの1位〜3位入賞者にメインスポンサーのリスト株式会社より楯と副賞が贈られました。本学学生はテクノクラス(男子)で優勝と2位、(女子)で3位に入賞、入賞者の名前が呼ばれるたびに歓声があがり、大変な盛り上がりでした。表彰式の後にはウェルカムパーティを開催。参加者同士が親しく交流し、大会は大成のうちに幕を閉じました。



全日本選手権2連覇と創部30周年を祝ってOBらが参集

ウィンドサーフィン部は昨年に続き、今年の日本学生ボードセーリング選手権大会で優勝し2連覇を果たしました。その祝勝会と創部30周年記念式典を兼ねた集いが2010年7月24日(土)横浜ロイヤルパークホテルで行われ、第1期から30期までの先輩と現役部員、セーリング連盟関係者、大学関係者など約100名が集まりました。これまでの大会の写真が展示された会場ではそれぞれ思い出話に花が咲きました。OBの皆さんは久しぶりの仲間と「もう1度海のスポーツに戻りたい」、「後輩の面倒をみたい」など、海と学生にもっと関わりたいという人が多く、やはり離れがたい愛着があるようです。

その表れとして社会に出てから湘南地区に戻って住み着くOBが多いことが挙げられると、自らもOBで現在ウィンドサーフィン部監督である小池哲史さんは言います。「とにかく湘南のあちこちに関東学院の卒業生が住んでいて部活へのアドバイスをいただける、いろいろな面で心強く、とても地元に着いていると感じ

ます」湘南の海と地域の人々に育てられてきた関東学院、この恵まれた環境がウィンドサーフィン部やヨット部の強さの源になっているのです。

ウィンドサーフingは、大学から始める学生も多いそうです。小池監督いわく「海に出て練習する回数を重ねる内に、風を読み、潮の流れを読み、微妙な差異を嗅ぎ分けられるようになって、ウィンドサーフingの面白さにドンドンハマり込んでいきます。」そして「競技相手と常に駆け引きしながら艇を進める奥の深さは、頭脳プレーであり団体戦ではチームプレーが必要です。初心者でも一度ぜひ体験して欲しい」ということでした。



長い伝統を誇るヨット部、世界レベルで活躍するトッププレーヤーを輩出

関東学院大学ヨット部は75年の長い伝統を誇るクラブで、OB組織の規模も大きくサポート体制が充実しています。練習は葉山の森戸海岸と八景島シーパラダイスで行っていますが、八景島は金沢八景金沢文庫キャンパスとの距離も近く、講義に出席しながら部活を続けられるので便利です。練習は厳しいですが、部員は全日本選手権での勝利をめざし「真剣にヨットを楽しむこと」をモットーに活動しています。これまでオリンピック選手や世界レベルで活躍しているプレーヤーを輩出、昨年12月にドーハ・カタールで行われた第15回アジア大会にはOBの飯島洋さん(2000年度経済学部卒)が出場、銀メダルを獲得しています。



Olive Cup in Zaimokuza, a 30th anniversary event of Kanto Gakuin Windsurfing Club

The Olive Cup in Zaimokuza, a windsurfing competition organized by the Kanto Gakuin Windsurfing Club, was held on July 25. The competition, with about 80 participants, started at 9:00 am and ended at 4:00 pm. The awards ceremony was held from 4:30 pm. The top three winners in both the men's and women's divisions were awarded a plaque and a prize presented by List Co., Ltd., the main sponsor. A welcome party was held following the awards ceremony to provide the participants with an opportunity to interact with each other.

Kanto Gakuin Univ. Windsurfing Club won the Japan University Boardsailing Championships this year for the second consecutive year. A reception to celebrate the victory and the 30th anniversary of the club was held on July 24 at Yokohama Royal Park Hotel with 100 participants. Among the participants were both current and former members of the club, including the initial members, the affiliates of the Japan University Boardsailing Federation, people from the business community, as well as the President of Kanto Gakuin University.



ゲストOB 貝道和昭氏

関東学院中学校高等学校(1957年卒)

関東学院大学経済学部(1961年卒)

現職 神奈川県セーリング連盟会長

(インタビュー 学校法人関東学院 学院長 森島牧人先生)

ヨットとともに歩んだ人生、
70歳を過ぎても現役セーラー!

森島 関東学院で過ごされた学生時代の思い出というところなことがございますか。

貝道 三春台で過ごした私の高校時代はヨット一色の生活でした。高校入学と同時に創部から1年経ったヨット部に入学した私は、高2と高3の2年間主将として活動を軌道にのせるべく努力しました。当時はヨット部顧問の山本太郎先生や伊藤卓二先生が応援して下さってA級デザインを2艇建造して頂き、大きな励みになりました。高2の時、第10回の神奈川県国体と修学旅行の日程がぶつかって、修学旅行を諦め葉山で国体の手伝いをしたことも思い出ですね。高3の時には大人の方を乗せたヨットが横浜ヨット港の入り口で沈しました。乗っていた方は救助して頂きましたが風が強くて艇を起こせない、その内に鶴見川の入り口まで流れて海上保安庁の方に助けて頂きました。

森島 貝道さんが三春台ヨット部の土台を築かれたんですね。その後大学で



もヨットを続けられたのですか。

貝道 大学に入ってからには経済学部のクラス委員にされたり、4年の時に選択で原書講読を履修したら学生が1人で1年間清水忠直先生から1対1で教わったり、それも思い出ですね。ヨットのほうは1年の時からレギュラーとして順調に活動していました。東北学院とよく定期戦をやっていましたから、松島瑞巖寺の隣の円通院で合宿して松島湾の中でレースをやりましたね。それから4年のキャプテンだった時に初めて女子の部員を募集しました。その時の1年生に著名な建築家の長谷川逸子さんと堤さんという女子が入部しました。彼女たちが2年生の時、鹿児島国体の神奈川県代表選手で出場しました。それ以来女子選手も活躍するようになり、アジア大会に出場するような国際的な女子選手も誕生しましたね。

私は昭和36年に大学を卒業すると



つたのですが、その時に茶毘に付すまでのお葬式の手配をして下さったのが森島先生のお父さまです。あの時は本当にお世話になりました。

森島 当時私はまだ神学大学に入学したばかりでしたが、大変痛ましい事故で良く憶えています。

貝道 亡くなった部員の志を生かすためにもヨット部を立て直さなければという想いがあつて、監督を辞められなくなりまして。それが今日までヨットとの関わりが続いた理由でもあります。

森島 ヨット部は、三春台においても大学においても非常に活躍してきた伝統あるクラブです。その中で紆余曲折を経ながら現役時代から監督、全国区のヨット界でもリーダーとして牽引し、関東学院のヨット部をここまで育てて下さった貝道さんの功績は多大なものです。現在も県セーリング連盟の会長としてご活躍されていて、本当に頭が下がります。

貝道 今は神奈川県セーリング連盟の会長をやっています。この春までは神奈川県体育協会の副会長を4年、その前は理事、県体育協会は20年以上役員をやってきましたが、応定年で3月に退きました。日本ヨット協会では昭和59年から平成11年の間に理事と理事長を務めました。その後、日本ヨット協会と日本外洋帆走協会を統合して日本セーリング連盟を創設、初代の専務理事に就任して活動が軌道にのったところで日本のヨット界全体の仕事は終わりにしました。その後は地元で横浜金沢連絡協議会の会長、それと並行して平成16年〜20年横浜市工業会連

合会の会長も務めたり、地域の仕事で忙しくしています。

森島 お忙しいとは思いますが、いつもヨットと共に歩まれる生活が出来るというところは幸せですね。

貝道 そういう意味で自分は二番いい人生を歩んでいると思います。周りにいつもヨットを応援してくれる先輩後輩がいた、ヨット界を良くしているという奉仕の精神が皆さんの中に浸透していたからだろうと思います。



森島 特に三春台で育った人たちは、関東学院のスピリッツを強く感じていると思います。身近に坂田祐先生がおられましたから、坂田先生との出会いとか、坂田先生の薫陶のもとに関東学院を盛り立てていた素晴らしい先生方がおられた、そういう環境が自然と「人になれ 奉仕せよ」という精神に向かわせているのだと思います。貝道さんは昨年「旭日雙光章」を叙勲されましたが、ヨットに関するいろいろな奉仕活動が評価されたのだと思います。昨年

もみなとみらい21で奉仕の催しをされましたね。

貝道 横浜開港150周年記念というところで「国際アクセスディンギーレガッタ」を開催しました。障害者の大会やお年寄りのディンギー大会など、障害者を含めた全ての皆さんに海の良さを体験して頂こうという主旨です。障害者でも操作できるアクセスディンギーは10年前にオーストラリアで開発され、皆が海で楽しめる環境をつくるために我々も頑張ってきました。あと7、8月の休日に横浜の港を開放して市民や施設の子に海を体験してもらおう「横浜港ボート天国」は昭和63年から続けていて今年は23回目になりますが、その実行委員長を最初から務めています。

森島 ヨットは生涯を通じてできる、経験のスポーツでもあると思います。だから若く力のある時だけ楽しむのではなく、年を経るごとに経験の中で増していく楽しみ方があるスポーツだと思います。貝道先輩はまさにそれを実践されていますね。

貝道 今年のA級ディンギーの全日本大会で、70才以上のスーパージニアの部に出場して2位に入賞しました。まだまだセーラーとして現役です。だから皆さんには海に出てマリンスポーツをぜひ楽しんでいただきたい、海というのは日々条件が違い、毎日が新しい経験をするし、逆に絶えず努力して新しいその日の条件に対応していかなければいけない、そういう意味では人生そのものです。海の上でヨットを乗りこなせると、人生も上手く乗りこなせるようになると思います。

Having lived with yachts -- Still a sailor at the age of over seventy!

Mr. Kazuaki Kaido, President of Kanagawa Prefecture Sailing Federation, says that he devoted himself to yachting throughout his school life at Kanto Gakuin. As soon as he entered senior high school he joined the school yacht club, which had been established just one year before, and he served as captain for the following two years. At university, he was already a regular member when he was a freshman. After graduating from university, he participated in a training camp in preparation for the selection of team members for the Tokyo Olympics. Although he was not selected as a member, he supported the race as an official. Since then he has served as coach for the Kanagawa Prefecture team for the National Athletic Meet and concurrently as coach for the Yacht Club of KGU. Mr. Kaido has played a leading role in the yacht world in Japan as a representative of various kinds of sports-related associations. In recognition of his outstanding achievements, he was decorated with the Order of the Rising Sun, Gold Rays and Silver Rays.



●貝道と昭(かいどうかずあき)氏 略歴

1957年	関東学院中学校高等学校卒業
1961年	関東学院大学経済学部卒業
1961年	横浜港木材倉庫株式会社入社
1988年	横浜港ボート天国実行委員会委員長
1996年～	横浜金沢産業連絡協議会理事
2001年～	横浜金沢産業連絡協議会会長
2005年～	神奈川県セーリング連盟会長
2005年～	関東学院大学ヨット部OB会会長
2009年	旭日雙光章受賞

現在 横浜港木材倉庫株式会社
代表取締役社長
株式会社横浜シーサイドピア
代表取締役社長

就任挨拶



六浦中学校・高等学校 校長

河合 輝一郎

Inaugural address

Kiichiro Kawai, Principal, Mutsuura Junior & Senior High School

Students say "Good morning, Mr. Kawai" and I respond "Good morning."

This exchange of morning greetings gives me energy for the day. These moments are when I truly appreciate being at this school.

While it is important to have the same perspectives as students, educators are also expected to face their students as responsible adults. Maintaining a balance between humbleness and leadership is important. I hope to find out, together with other teachers, how we should live as human beings through daily interactions with our students.

However, I have wondered for sometime if I have a strong leadership ability to do so. I came upon the phrase "Therefore do not worry about tomorrow, for tomorrow will worry about itself. Each day has enough trouble of its own." in the Gospel according to Matthew. Then I realized that I should just continue what I have been doing. Now I feel and receive the grace of God in the wind blowing through Mutsuura.

金 沢八景駅から六浦中学校・高等学校に向かう15分の風景は、潮の香に包まれている。山育ちの自分の知っている香りとは異なるが、今まで忘れていた人間の温もりを感じさせる懐かしい匂いである。自分を追い越していく背の高い坊主頭の生徒たちが「校長先生、おはようございます」と元気な声をかけていく。「ああ、おはよう」。この一声だ。この一声が今日一日の貴重なエネルギーになる。主イエス・キリストが人々に声をかけることで奇跡が起こったように、自分の心の中に大きなうねりが生じてくる。六浦に来てよかったと思う瞬間でもある。

昨年の12月に始まった関東学院六浦中学校・高等学校校長の話は、いろいろな意味で今までの教員としての自分自身を見つめなおすよい機会になった。40年前、関東学院に来てはじめて主イエス・キリストと出会った。60年代後半から始まっていた学生紛争の嵐の中で、本来あるべき人間の姿を求めていた自分にとって、この出会い、そして「人になれ 奉仕せよ」の言葉は、自分自身の生き方を根本から覆すものであった。「人間の尊厳を取り戻し、人間らしく生きるために闘わなければならない」。運動家は何かというそれを口にしていた。そしてそれは間違っていない言葉ではあるが、結果的には人を傷つけ、人を裁くことで自分自身をも傷つけていた。生徒とのつながりを通して、本来あるべき教育に携わっていきたい、という思いで教員になった自分ではあったが、そこにあったのは、思い上がりにも似た正義感と英雄主義であった。「こうあるべきだ」という自分の勝手な思い込みだけでは、生徒たちとつながることはできない。生徒と同じ目線に立つことは大切なことだが、責任あるひとりの大人として、生徒と向き合うこともまた教育者には求められている。謙虚さと指導力、このバランスが大切なのだ。これは何も教育に限られたことではないが、お山の大将になりがちな私たちにとって、常に意識していなければならない事柄である。

一人の教員として、今までは自分だけの問題として受け止めていればよかった。しかし、学校の責任者となる場合は、そういうわけにはいかない。学校としての教育目標はいうまでもないが、具体的な生徒たちとの接点のなかで、人としての本来あるべき生き方を、先生方とともに求めているかなければならないからだ。様々な教育理念を持っている先生方と真剣に議論していくとき、意見の食い違いも当然予想される。そこで問われるのがリーダーシップである。はたしてこの自分にそれだけの力があるのか、それができるのか。自問自答が続いた。その時、マタイによる福音書6章の記事が目にとまった。「思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。なによりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

その通りなのだ。今まで自分が関東学院中学校高等学校でやってきたことそのままをやっていけばいいのだ。天の父なる神様は、今までも十分とはいえないそういう自分を支えてくれたではないか。そのことを信じて自分の持っているものすべてを出していけばいい。そう思った。

平潟の海に輝く日の光、潮の香り。「空の鳥、野の花を注意して見なさい」と言うイエスの言葉ではないが、六浦に吹く風のなかに、神様のご恩寵を感じている。

略歴(平成22年4月1日現在)

河合 輝一郎(かわい けいちろう)

【学歴】

昭和42年3月 駒澤大学高等学校卒業

昭和46年3月 國學院大学文学部文学科卒業

【職歴】

昭和46年4月 関東学院中学校高等学校教諭(平成22年3月迄)

平成19年4月 関東学院中学校教頭(平成22年3月迄)

平成22年4月 関東学院六浦中学校・高等学校校長

平成22年4月 学校法人関東学院理事・評議員

●2010年度秋学期公開講座一覧

実施場所	講 座
金沢八景キャンパス	実践ファイナンシャルプランニング講座
	陶芸講座
	韓国語初級3
	韓国語初級
	フランス語会話入門
	映画でフランス語会話中級
	ラッピングコーディネーター講座
	シャーロック・ホームズ魅力の世界Ⅴ
	日本の文化ー伝統工芸・鎌倉彫(初級編)
	中国語中級
	日本の文化ー美しき能の世界
	暮らしの中の色彩講座
	パートナーとのより豊かな関わり方の秘訣
	地元「金沢」の歴史を知ろう その4
	中国語入門
	中国語初級
	たのしいパソコン講座 ーWordで写真付きカレンダーを作ろう
	日常生活の法律講座
	イタリア都市紀行 ヴェネツィア地方
	日本の文化ー太神楽、江戸曲独楽
	たのしいパソコン講座 ーWordで思い出の写真をフォトブックに
	コンサートシリーズ第15回
	日本を知ろう! 世界に誇る日本の魅力
	ラッピングコーディネータ講座(応用)
	保育実践講座
	源氏物語の世界 その四
	負担増時代・家計をどう守る
金沢文庫キャンパス	第14回英語公開講座
小田原キャンパス	激動する世界と日本
	不安定社会の法と倫理
KGU関内メディアセンター	説得・交渉力入門
	なるほど楽しいエクセル
	たのしいパソコン講座 ー無料メールで写真を送ろう
	詩を読む・詩を書く
	韓国語中級
	哲学初歩・12 ハイデガーの思想(2)
	アテネ・ローマそしてヨコハマ
	みなと横浜の居留地
	平和について語る 8
	短歌創作前のレッスン・その3
	舞台の映像を楽しむ
	たのしいパソコン講座 ー無料ツールでパソコンライフ
	映像製作の現場から ー小津映画からCMまでー
	Word知って得する便利術
	ギリシャ古典を読む 4
	EラーニングとライブによるTOEIC講座



講座
潜入
取材!

第4回「行った人はまだ少数?絶対満足世界遺産」 プロのナビゲーションで未知の世界を旅する

本 学生涯学習センターと株式会社JTB首都圏横須賀支店が連携して実施する産学共同講座「世界を旅しよう! プロが教える世界の魅力」が第4回目を迎えました。「旅」をテーマにどんな講座が行われているか、今回は本誌記者がー受講生として潜入、講座の様子をお伝えします。

開催時間の午後2時が近くなると金沢八景キャンパスの教室には受講生が続々と集まってきました。教室を見回すと50~60歳代の男女が圧倒的に多く、学生の姿もチラホラ。年配の皆さんは明らかに旅行の巧者、メジャーな場所はほとんど旅して、今回の「珍しい旅行先」に期待して参加した余裕が感じられます。

大型画面に映し出される未知の国々の文化遺産や風俗、講師の仲田勢津子先生と共に思い出を辿るような説明に受講者は熱心に聴き入っています。最初はアフリカ大陸のエチオピア、南アフリカ、チュニジアの3カ国。宗教色の濃さや風俗の違いが複雑で、ある種の緊張感を感じました。特に今年サッカーのワールドカップが開催された南アフリカはアパルトヘイトの歴史を持ち非常に治安が悪いというイメージ。でも、仲田先生はジャカラングという美しい花に彩られた国、それにプレトリアからケープタウン間を

走るホテル風豪華列車ブルートレインは世界一だと言うのです。「えっ、世界一はオリエント急行じゃないの?」といった表情の受講者たちに、その根拠を

見せてくれます。各客室に備えつけられている美しいトイレや乗車を待つ華麗なサロン、ブルートレイン内の客室、食堂、次々と映し出される豪華な非日常の風景に目を奪われました。列車が好きな人は後からさらに調べるつもりでしょう、細かくノートにメモしていました。

次いで、インド洋に浮かぶ島マダガスカル、イラン、イスラエル、ロシアと紹介。イランは国民のほとんどがイスラム教なので、その伝統を守らなければいけないこと、キリスト教とユダヤ教、イスラム教の3つの宗教のメッカであるイスラエルは見るべきものが多いことなどが紹介されました。規定の時間を過ぎても講師・受講生双方の希望により講座を続けた仲田先生、受講生の表情にも「旅に出たい」というモチベーションの高まりが見られ、旅行のプロのナビゲーションで未知の世界を旅した贅沢なひと時となりました。



Academic-Industry Joint Public Lecture organized by Kanto Gakuin University and JTB Corp. Tokyo Metropolitan Area-Yokosuka Branch Navigation by a professional traveler to an unknown world

The following is a first-hand report by our correspondent on the 4th and the last session of an academic-industry joint public lecture series organized by the Lifetime Learning Center of Kanto Gakuin University and JTB Corp. Tokyo Metropolitan Area-Yokosuka Branch. The venue, Room 301 of the Lifetime Learning Center, was filled with participants: an overwhelming majority of those in their 50s and 60s along with some students. The lecture, which was given by Ms. Setsuko Nakata under the theme "Unfamiliar Destinations," started at 2 p.m. With pictures shown on a large screen, Ms. Nakata talked about cultural assets, local manners and customs of countries that are unfamiliar to many of us. The participants became enthralled, as she described the pictures as if she was sharing her own memories with them. The countries she introduced were Ethiopia, South Africa, Tunisia, Madagascar, Iran, Israel and Russia. Each of those seven countries is complex and diverse in their religions, customs and manners. And that is why, Ms. Nakata explained, when traveling in a country that is unfamiliar to us, we need to give particularly careful consideration to the country's background. Having enjoyed the "trip to unknown countries" navigated by a travel expert, the participants seemed to have become even more motivated to set off on their own trips.



学院役員・教職員人事

新任役員

①現職 ②就任年月日 ③最終学歴



小野 慈美
おのの しのび
①理事
②平成22年4月1日
③東京神学大学大学院
神学研究科



J.A.アーマガスト
①理事
②平成22年4月1日
③カンザス大学大学院



倉沢 新一
くらさわ しんいち
①理事
②平成22年4月22日
③筑波大学大学院
農学研究科



本田 耕一
ほんだ こういち
①理事
②平成22年4月22日
③慶應義塾大学大学院
法学研究科



河合 輝一郎
かわい けいいちろう
①理事
②平成22年4月1日
③国学院大学文学部

新任教員

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴



西田 麻美
にしだ まみ
①工学部 機械工学科 講師
②自動車工学
③平成22年4月1日
④電気通信大学大学院
電気通信学研究科



石井 穰
いしい じょう
①経済学部 経済学科 講師
②経済学史
③平成22年4月1日
④一橋大学大学院
経済学研究科



吉田 英嗣
よしだ ひでつぐ
①経済学部 共通科目 講師
②地理学
③平成22年4月1日
④東京大学大学院
新領域創成科学研究科



浅田(碓井) みちこ
あさだ(うすい) みちこ
①文学部 比較文化学科
講師
②博物館学
③平成22年4月1日
④京都大学大学院
文学研究科



山邊 省太
やまべ しょうた
①文学部 英語英米文学
科 准教授
②アメリカ小説
③平成22年4月1日
④名古屋大学大学院
国際言語文化研究科



石丸 吉隆
いしまる きよたか
①中学校高等学校 教諭
②理学科
③平成22年4月1日
④名古屋大学農学部



安井 聖
やすい せい
①文学部 比較文化学科
特約講師
②キリスト教史
③平成22年4月1日
④立教大学大学院
文学研究科



富井 利安
とみい としやす
①法学部 法学科 特約教授
②民法
③平成22年4月1日
④早稲田大学大学院
法学研究科



小河 陽
おがわ あきら
①経済学部 共通科目
特約教授
②キリスト教神学
③平成22年4月1日
④ストラスブル第二大学
プロテスタント神学部



城倉 登代子
じょうくら とよこ
①人間環境学部
人間発達学科 准教授
②臨床心理学
③平成22年4月1日
④上智大学大学院
文学研究科



山本 雄也
やまもと ゆうや
①小学校 教諭
②理学科
③平成22年4月1日
④横浜国立大学大学院
教育学研究科



村上 博之
むらかみ ひろゆき
①小学校 教諭
③平成22年4月1日
④鳴門教育大学大学院
学校教育研究科



田澤 由紀子
たざわ ゆきこ
①六浦中学校・高等学校
教諭
②英語科
③平成22年4月1日
④中央大学文学部



尾作 茂樹
おさく しげき
①中学校高等学校 教諭
②英語科
③平成22年4月1日
④東京都立大学人文学部



伊奈 輝一
いな こういち
①中学校高等学校 教諭
②理学科
③平成22年4月1日
④明治大学大学院
理工学研究科

新任契約講師



羽部 孝雄
はぶ たかお
①中学校高等学校
②理学科
③平成22年4月1日
④東京大学農学部



進藤 さえ
しんどう さえ
①中学校高等学校
養護教諭
③平成22年4月1日
④鎌倉女子大学家政学部



近藤 陽一
こんどう よういち
①工学部
物質生命科学科 助教
②生命科学
③平成22年4月1日
④横浜市立大学大学院
総合理学研究科

新任任期制教員



田所 真弥
たどころ しんや
①野庭幼稚園 教諭
③平成22年4月1日
④近畿大学九州短期大学
保育科



柿倉 まゆみ
かきくら まゆみ
①六浦小学校 教諭
②図工
③平成22年4月1日
④武蔵野美術大学造形学部

学校法人 関東学院役員一覧

理事長	飯田嘉宏
学院長	森島牧人
常務理事	星野彰男 増田日出雄 吉沢寿朗
理事	大野功一 富山隆 河合輝一郎 名取俊夫 島田正敏 松田和憲 秋山薊二 望月正光 本田耕一 平松友康 倉沢新一 沖山文敏 J.A.アーマガスト 小野慈美
監事	田野井一雄 R.L.スティブンス 天野昭一

平成22年4月22日現在

退任役員 (平成22年9月1日現在)

①所属 ②退任年月日

落越 道彦
おちこし みちひこ

①理事
②平成22年3月31日

山下 幸司
やました こうじ

①理事
②平成22年3月31日

井上 枝一郎
いのうえ えいちろう

①理事
②平成22年3月31日

D.P.デビットソン

①理事
②平成22年3月31日

澤野 芳久
さわの よしひさ

①理事
②平成22年3月31日

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴



山内 健太郎

やまうち けんたろう
①六浦中学校・高等学校
②理科科
③平成22年4月1日
④麻布大学環境保健学部



小林 珠乃

こばやし たまの
①六浦中学校・高等学校
②体育科
③平成22年4月1日
④日本体育大学体育学部



深野 基

ふかの はじめ
①六浦中学校・高等学校
②音楽科
③平成22年4月1日
④洗足学園音楽大学
音楽学部



林 広大

はやし こうだい
①六浦中学校・高等学校
②社会科
③平成22年4月1日
④関東学院大学経済学部



藤巻 理奈

ふじまき りな
①中学校高等学校
②保健体育
③平成22年4月1日
④日本体育大学体育学部



福井 友梨絵

ふくい ゆりえ
①野庭幼稚園
③平成22年4月1日
④東洋英和女学院大学
人間科学部



栗山 優子

くりやま ゆうこ
①野庭幼稚園
③平成22年4月1日
④横浜女子短期大学保育科



北川 理恵

きたがわ りえ
①六浦幼稚園
③平成22年4月1日
④関東学院女子短期大学
幼児教育科



山中 信樹

やまなか のぶき
①小学校
③平成22年4月1日
④関東学院大学文学部



相原 崇志

あいはら たかし
①小学校
③平成22年4月1日
④東京学芸大学教育学部

新任職員



上田 唱子

うえだ しょうこ
①国際センター運営課 書記
③平成22年4月1日
④明治大学文学部



中島 佑介

なかじま ゆうすけ
①情報科学センター運用
課 書記
③平成22年4月1日
④横浜国立大学
国際総合科学部



木村 吏一

きむら しいち
①教務課 書記
③平成22年4月1日
④関東学院大学経済学部



松岡 美希

まつおか みき
①人間環境学部庶務課
書記
③平成22年4月1日
④立教大学文学部



魚住 勇太

うおずみ ゆうた
①工学部 情報ネット・メ
ディア工学科 技師補
③平成22年4月1日
④慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科

新任嘱託助手

新任嘱託職員



橋浦 かほる

はしうら かほる
①六浦中学校・高等学校
事務室
③平成22年4月1日
④神奈川学園高等学校



山崎 倫世

やまざき みちよ
①中学校高等学校 事務室
③平成22年4月1日
④横浜国立大学
国際文化研究科



高橋 穂

たかはし みのる
①教務課
③平成22年4月1日
④一関商工高等学校
(現一関学院)



太田 勝美

おおた かつみ
①教務課
③平成22年4月1日
④札幌市立創成高等学校



曾根 佳美

そね よしみ
①人事課 書記
③平成22年4月1日
④関東学院大学
人間環境学部

新任契約職員



小高 徹也

おだか てつや
①入試課
③平成22年6月1日
④法政大学社会学部



高角(長谷川) 伸江

たかつの(はせがわ) のぶえ
①カウンセリングセンター
金沢八景(室の木)キャン
パス事務室
③平成22年4月1日
④お茶の水女子大学
大学院家政学研究科



淵上 友之

ふちがみ ともゆき
①管理課
③平成22年4月1日
④東京造形大学造形学部



櫻山 郁代

かしやま いくよ
①総務課
③平成22年4月1日
④聖心女子大学文学部

Employed and Retired Members of Kanto Gakuin Personnel

5 New Member of the Board of
Trustees
17 New Faculty Members
1 New Faculty Member Employed
Temporarily
12 New Faculty Members
Employed Contractually
1 New Assistant Faculty Member
Employed Temporarily
5 New Office Clerks
6 New Contract Office Clerks
2 New Office Clerks Employed
Temporarily
5 Retired Member of the Board of
Trustees

大学

学生短編映像祭2010
STUDENT SHORT
MOVIE FESTIVAL
2010 in Yokohama

2

010年2月26日から28日の3日間、現代コミュニケーション学科主催（運営・楠ゼミナール）のSTUDENT SHORT MOVIE FESTIVAL 2010 in Yokohamaが開催されました。

今年で2回目となる「学生短編映像祭」は、校内だけにとどまらず、学外にコミュニケーションの場を開くことを目的に、世界のショートフィルムを上映する映画館で行われました。

初日となる26日は、「PVはアーティストにとって役に立つのか？」というテーマでPV（プロモーション・



関東学院
各校
NEWS

ビデオ）上映とトーク及びミニライブのイベントを行いました。

PVは、「銀杏BOYZ」、「rega」、「OGREY O U ASSHOLE」、「おとき話」などを上映。ミニライブは、「ジギタリス」、「Ramue」、関東学院大学生バンドの「ウォーター・メロンス」が登場。そして、aikoiやいきものがかりなどの楽曲を手掛けるサウンドプロデューサー・島田昌典さんをゲストに招き、楠かつのり先生との「Metube的トークショー」。最後に、back numberの清水依与吏さんと島田さんの弾き語りミニライブが行われました。

会場では満員の観客の方が、音楽と映像の多彩な表現に見入っていました。また、アーティストのみなさんの素敵な歌声を聴くことが出来て、とても感動しました。

YouTubeからMeTubeへ！

YouとMeが出会えるショートムービー上映会
27日（土）・28日（日）13：10～16：30

27日、28日は現代コミュニケーション学科の楠ゼミナール生が制作した作品と、多摩美術大学、早稲田大学、東京大学他の大学から応募があった作品

を上映し、最優秀作品を決めるコンペが行われました。

恋愛もの、風景、ホラー、ギャグ、シニール、メッセージ性の高いものまで、個性的な作品が集まり、全部で21作品が上映されました。

プログラムごとにお客様に投票用紙をお配りし、作品上映終了後に「おもしろい」「良い」「印象に残った」作品に投票していただき、優秀作品を決定していきます。

最終日の28日、最終プログラムでは各プログラムの優秀作品5作品を再び上映、その中から最も優れた作品を、観客に投票していただきます。

結果、最優秀作品に選ばれたのは、楠ゼミナール4年生、七人のびーぼーの作品「ハッピークラウン」でした。交

通事故で友人を亡くした主人公がピエロ（クラウン）によってタイムスリップし、その友人を助けるという内容の作品です。

授賞式では「YouTubeからMeTubeへ」というテーマにちなんで、YouTubeでビデオに対する評価に使用される「星」にちなんだグッズが贈られました☆

こうして3日間にわたったイベントは無事に終



了しました。ショートフィルムを作成するだけでなく、運営に携わった2年生、3年生は当日までの準備と当日の運営に一生懸命取り組みました。お客様をご案内したり、チケットをもぎったり、投票用紙を集めたり、司会を務めたりとそれぞれの役割を果たしてくれました。

映画館という場所で、自分たちの作品が大きなスクリーンに映し出されたことに感動し、イベント

を開催できたことに感謝しています。

このイベントについては、FMヨコハマやヨコハマ経済新聞、神奈川新聞などで紹介され、上映祭の模様は、テレビ神奈川「NEWSハーパー」番組放送内で特集が組まれました(2010年3月3日放送)。私と井口君の楠ゼミナール3年生のゼミ長2人がスタジオに生出演しました。生放送は初めてなので、緊張しましたが、貴重な経験をさせていた

報告…金子彩花(楠ゼミナール3年生)



大学図書館の 社会連携事業

大 学図書館では、地域の社会教育機関との連携を2010年度事業計画の中に位置

づけ、地域文化発展のための活動を展開すること

としました。その一環として、横浜市金沢図書館

開館30周年記念と耐震工事後の再開館に合わせ、大学図書館で所蔵する「星の王子さま」のコレクションの一部を2010年4月2日から2週間、金沢図書館に貸出し、展示会を行いました。

大学図書館の「星の王子さま」コレクションは、内藤幸穂氏(本学院前理事長)が「星の王子さま」の訳者として有名な内藤濯氏の次男であることを縁に収集を始めたものです。

「星の王子さま」はたくさんの方の言語に翻訳さ

[University]

Student Short Movie Festival 2010 in Yokohama

A Student Short Movie Festival organized by the Department of Modern Communications was held for the second time from February 26 to 28, 2010, with the aim of providing students with opportunities for communication both within and outside the university.

The program on the 26th, the first day of the festival, consisted of showing promotion videos, a talk show and a mini-live performance. Various works expressed through music and images engrossed the audience that filled the venue.

On the 27th and 28th, a competition of 21 films produced by the Department of Modern Communications and other universities was held. Following the two-day presentation of these films, "Happy Crown" produced by "PeePoo," a group of seven seniors of the Kusunoki Laboratory was chosen as the best film.

FM Yokohama and newspapers, such as Yokohama Keizai Shimbun and Kanagawa Shimbun, reported this event, and. Television Kanagawa aired a feature on the festival in its program "News Harbor."

Social and Educational Projects organized by The University Library

The University Library has decided to undertake joint social and educational activities with local educational bodies as part of the 2010 Project Plan with the aim of promoting the local community. One such activity was the two-week exhibition at the Kanazawa Ward Public Library, featuring a part of the Library's collection of "The Little Prince".

"The Little Prince" has been translated into many different languages and is known as one of the world's best-sellers, third only to the Bible and "The Capital". The University Library's collection includes several copies of "The Little Prince" from around the world and various relevant materials: among them is the first paperback edition published by Reynal & Hitchcock, one of only three copies currently known to exist.

This fall, another exhibition of "The Little Prince" will be held at Yokohama City's Isogo Ward Public Library. If you live close to the library, please come and enjoy the exhibition. The University Library hopes to continue to further extend its activities to contribute to the local community.



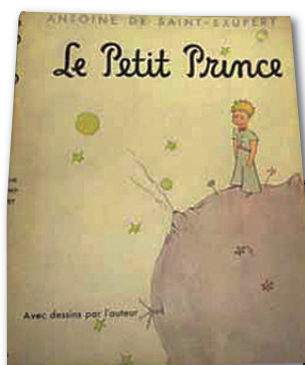
れ、聖書、資本論に次ぐ世界のベストセラーとして知られています。大学図書館では、各国で発行された「星の王子さま」や、その関連資料を数多く所蔵しています。コレクションの中には、現在、世界では3点のみ存在が確認されているレイナルヒッチcock社のペーパーバック版の初版も含まれます。

ドも、図書館では所蔵しており、こちらは金沢区民の皆様にも見ていただいております。区民の皆様には、大変好評をいただきました。さらに、この秋には横浜市磯子図書館でも、「星の王子さま」コレクションの展示会を行う予定です。お近くの方は、ぜひ大学図書館のコレクション

この版は、最近まで、非売品である可能性が高いとされていましたが、星の王子さまの収集家である金森憲雄氏により新資料が発見され、市販品であることが判明しました。しかしながら、ここでも、市販品であるのに、なぜ世界に3冊しか出てきていないのか、という新たな謎が生まれることになりました。金森氏によると、この資料の価値は、この発見によっても、さがらないそうです。(金沢図書館の展示では、この資料は展示をいたしませんでした。

品であることが判明しました。しかしながら、ここでも、市販品であるのに、なぜ世界に3冊しか出てきていないのか、という新たな謎が生まれることになりました。金森氏によると、この資料の価値は、この発見によっても、さがらないそうです。(金沢図書館の展示では、この資料は展示をいたしませんでした。

また、美智子皇后が内藤濯氏に贈ったレコードと同じレコード



本学所蔵ペーパーバック初版本



中学校高等学校

中学教頭 鍛塚 浩一

二泊三日校外学習

六 月の第一週、天候にも恵まれ、一年生は「選

び」を学びに天城山荘へ、二年生は「人権」を学びに奈良・大阪へ、三年生は「愛」へ他者を考え、広島・長崎へ、それぞれのテーマを掲げ、二泊三日の校外学習を実施しました。特に、一年生は今回初めての試みとして、河津七滝から天城山荘までグループで協力し、助け合いながら歩き切るその名も「KGハイイク」を実施しました。約十六キロの道のりを仲間と楽しく、励ましあいながら、歩き貫きました。

各学年の生徒の感想を紹介します。

天城修養会を終えて！

一年 小坂井 瑛菜

「行ってきたあす」私はそう言つて家を出ました。いつも通り学校に着きバスに乗つて出発しました。

山荘について、まず始めに開会礼拝をしました。校長先生の「器」を使つたお話を聞いて私は、人は粘土と同じようにあまり頑丈にできていないけど、その分落ち込んだり、傷ついたりしてもすぐに立ち直れるということが分かりました。その後、関東学院について教えてもらいました。坂田先生のことなど知らなかったことをたくさん教えてもらいました。夜のキャンドルライトサービスでは、讃美歌をたくさん歌つてもらいました。お話を聞いて、人は一人ひとり神様に愛されていることをあらためて考えることができました。

二日目は、「番楽しみにしていたKGハイイクでした。十六キロという長いハイキングをしたことはなかったので不安も少しありました。でも、班のみんな

なで協力しな

がら歩いていた

ら最後までだ

れもリタイヤ

せずにゴールで

きました。順

位は早い方で

はありません

でしたが、班の

全員でゴールで

きたことがと

ても嬉しかったです。

今回の修養会を通して友達との仲を深めるこ

とができましたし、キリスト教の生活についていろ

いろ学べた良い機会になりました。

「人権について」

二年 佐野 愛理

大阪人権博物館では人権についての様々な資料が展示されていました。一番関心があったのは公害についてで、その中でも特に関心を持ったのは「水俣病」についてです。

水俣病は、工場排水中のメチル水銀に汚染された魚などをたくさん食べることで起こった中毒症です。水俣病が発見された当時は、政府・県がその責任を認めず、熊本県の人々とはとても苦しみました。しかも県外に移り住んだ患者が抱える問題に、十分な医療が受けられないということがあります。



それが治らず、さらに



差別が進んで行きました。しかし、阪南中央病院ではこの水俣病患者の申し込みを受け入れ、日常の診療や定期的な健康診断も行ったのです。

そのような中でも診療を受けられない人々がいました。その人たちが、国や行政の責任を追及するために裁判を起こし、交渉を行っていました。そして水俣病の被害の全体像を明らかにすること、すべての患者を救済することを要求していき

ました。

長崎研修旅行へ他者を考えるへ 三年 佐藤 里夏

戦争は、とても多くの被害をもたらし、多くの被害者を出した。たつたつの原子爆弾により、長崎の約三分の一の人々が亡くなった。こんな大変なことが起こったのだ。

長崎の資料館では、事前学習の映像で見たものを実際に見て心が重くなった。女学生がもつていた、焼かれてしまったお弁当、原爆が落ちたときに階段に座っていた人の影、色が変わってしまったお金、そして顔や体が変わ形してしまっている写真。どれを見ても、一つの原爆がもたらした被害は本当に大きいことが分かった。

その中でも印象深かったのは、子どもの書いた文章だ。家族を亡くしてしまったまだ小さな子どもだ。その文章を読んでいると、その子どもたちがどれほど孤独で恐怖の中にいたのかが身にしみて分かった。

講話をして下さった安井さちこさんもそのうちの一人だと思った。講話の中に「友達が窒息している姿を見ても、何の感情もわいてこなかった。」と言つておられた。きっと当時そのように感情をなくした子どもはたくさんいたのだらうと思った。

原爆は人の体を痛め、建物や物を壊した。しかし、それ以上に原爆に傷つけられたものは人の心だと思えます。資料館では展示できない被害にあった人もあわなかった人も、一人ひとりの心にとっても大きな傷を残したのが原爆なのだと思います。現在戦争を続けてい



[Junior and Senior High Schools]

Two-night / three-day field trip

Our junior high school students went on a two-night/three-day field trip in the first week of June, in fine weather. The first-year students went to Amagi-sanso to learn about "ERABI," (God's selection), the second-year students went to Nara and Osaka to learn about "human rights", and the third-year students traveled to Hiroshima and Nagasaki to ponder "love to the others". As this was the first field trip for the first-year students, a special program called the "KG hike" was included. In the KG hike, students walked in groups from Kawazu-nanadaru to Amagi-sanso, about a 16 km-long course, while helping each other. They enjoyed the walk and sometimes encouraged each other along the way, and most of the students successfully completed the hike.

六浦中学校・高等学校

学年主任 田中 高生

四年生・一日研修

四年生の学年行事として、「一日研修」が五月十四日（金）に行われました。この行事は、

他の学年が校外学習へ出ている期間に毎年行われています。高校生活を始めるにあたり社会の様々な分野で活躍している方々からお話を伺い、話し合いの機会を持ち、現在の自分の生活を振り返りながら、「仕事をすること」、「将来」について考えることを目的としています。

午前中は、礼拝堂にて全体講演と全体懇談が行われました。全体講演では、川崎戸手教会主任牧師の孫 裕久氏より「人間になりたい——妖怪人間に学ぶ——」というユニークなテーマでお話をいただきました。四十年前程前にテレビで放映された『妖怪人間ベム』の話を用い、私たち日本人の経済的な豊かさの陰で他国の人々が犠牲になっていること、何の仕事に就こうかと当たり前のようになっていることが実は非常に恵まれたことであるということを知りやすくお話ししてくださいました。



いました。一日研修を始めるにあたり、生徒だけでなく、私たち教員にとっても大変示唆に富むお話でした。

その後の全体懇談には、池田等氏（博物館館長）、大角奈緒子氏（管理栄養士）、奥野泰孝氏（トータルライフコンサルタント）、川合宏氏（税理士）、小西毅氏（ストアリーダー）、鈴木礼那氏（メイクアップアーティスト）、高桑大朗氏（プロサッカーコーチ）、千頭和文子氏（幼稚園教諭）、松野智義仁氏（ソーシャルベンチャー）、三浦由季子氏（研修講師）といった多彩な分野で働いていらっしゃる講師の皆様をお招きし、「仕事」や「夢」、「働く」ということについて活発な意見交換を行いました。

「高校時代にすでに将来どんな職業に就くかを決めていましたか？」という生徒からの質問に対して、多くの講師の方が、「明確に決めることが出来なかった」、「好きなことに熱中していた」と答えておられ、生徒たちは現在の自分と同じだと感じて安心したようです。また、講師の方の自信に満ちた、仕事について誇りを持っている姿に接し、将来は講師の方々のように満足感の得られる仕事に就きたいと感じた生徒も多数見受けられました。普段接している教員以外の社会で活躍されている講師の方々との交流によって、授業では得ることの出来ない刺激を受ける良い機会となりました。

午後は少人数のグループごとに分かれ、講師の方を囲み、生徒たちの自己紹介、全体懇談よりさらに詳しいお話を伺い、質疑応答の時間を持つことで、さらに考えを深めることが出来ました。華やかに見える仕事の裏にある苦労や次々に襲ってくる仕事上の困難を乗り越えるための秘訣など、それぞれの講師の方の個性が発揮された時間となりました。生徒たちも「楽しい仕事はない」と強く感じていたようです。



グループ懇談

の後、再度礼拝堂に集合し、最後のメッセージをいただきました。これまでの研修のまとめとなるお話を伺い、生徒によって共感したり、感動する部分は異なりましたが、静かに聞き入っていました。



最後にクラスに戻り、各自感想文を書きました。午前午後と慣れないプログラムでしたが疲れた様子も見せず、集中して机に向かっておりました。講演者や講師の方々の感謝の気持ちが伝わってくる作文も多く見られ、生徒たちの受けた影響の大きさを感じました。

なお、二学期には校外での研修を計画しています。実地研修を行うことで、自分により合う仕事のイメージを抱く機会になればと考えています。一日研修においてお力添えをいただいた講演者、また講師の方々に深く感謝申し上げます。

[Mutsuura Junior and Senior High Schools] One-day special session for 1st year high school students

A one-day special session for the 1st year high school students was held on Friday, May 14. The event's aim was to provide students with an opportunity to listen to those who are actively involved in society and to think about "work" and their "future", while reflecting on the current day-to-day life and getting themselves ready for senior high school.

In the morning session, Mr. Son Yugu, the Principal Pastor of Kawasaki Tode Church, gave a lecture on a unique theme, followed by a lively discussion with guest lecturers from a variety of fields. In the afternoon, students were divided into small groups. After self-introductions, they had a chance to listen to more detailed stories from their group's lecturer. The subsequent "Questions and Answers" session enabled the students to further deepen their understanding. At the end of the event, they gathered together in the chapel again where they were given the last message of the day.



小学校

教諭 市川 亜紀子

親子の集い

5 月29日(土)に中学校高等学校のグレスセット礼拝堂にて親子の集いが行われました。今回はテレビ等で活躍されているグルメレポーターの彦麻呂さんが「夢はかなう!! 彦麻呂、宝石箱の身身!」のタイトルで講演してくださいました。

始めに、幼少期からの生い立ちをお話になりました。現在に至るまでの中で、先輩から「夢は心を持って進んで行くと、必ず夢は叶うからね。」と教えられたことをきっかけに、「自分の夢に向かって一生懸命努力をしよう。」と思い続けて今があることを話されました。

グルメレポーターの経験からのお話では「味覚は記憶だ。」ということを実感し、「お母さんが作ってくれたものを食べることでそれが人生の中の潤いになり、大人になっても一度食べたいと思うことでつながりと絆が深まってくるのです。」



[Primary School]

Parents and children gathering

On Saturday, May 29, a parents and children gathering was held at Gressitt Chapel at Kanto Gakuin Junior & Senior High School. Hikomaro, a well-known "gourmet reporter," was welcomed as the guest speaker for the day. He gave a speech under the title "Your dream will be fulfilled! Hikomaro shares what he has in his jewelry box!". In his speech, he told the audience how he started to believe that "dreams come true as long as you hold on to them" and decided to "make every effort to fulfill the dream". By focusing his mind on his goals, he was able to achieve his present day success. Based on his experience as a gourmet reporter, he said to the students, "Appreciate what your mother cooks for you and appreciate your mother. Whenever you eat something, please show gratitude to the person who has cooked the meal. You will never forget what you ate in your childhood."

In the end, Hikomaro asked "What do you wish to be when you grow up?" In response, many students raised their hands to tell him what their wishes were. Admiringly, Hikomaro said to them "It is good that you can express what you want to be when you grow up." His speech made the audience aware again of the importance of having a dream and how precious each meal is.

と話されました。また、グルメレポーターとして、「おもしろい事を言うよりも、作ってくれた人のドラマや思いが、心に入るんだ。」と思い、「食べ物はお腹を満たすだけでなく、作ってくれた人の思いも食べた人の心に届くということを感じとれる人になつていこう。」と考えるようになったことも話されました。このことを通して、児童に「食べ物を通してお母さんに感謝し、作ってくれた人の心がわかるような食べ方をしたい。」と、お話しくださいました。

最後に、彦麻呂さんから「大きくなったら何になりたいですか。」と質問がありました。多くの児童が手を挙げ、「何になりたいか人前で言えることは、いいことです。」と褒めていただき、彦麻呂さんが児童席にマイクを持って聞きに行く場面もありました。

夢を持つことの大切さ、食事の大切さを改めて感じる講演となりました。



六浦小学校

児童会担当 鶴崎 寿

新入生歓迎遠足

六 浦小学校では、二十年前から全校で海の公園に出かける新入生歓迎遠足を行っています。

毎年、ゴールデンウィークの前後に実施するので、潮干狩りが恒例の楽しみで、この日の夕食にはあさりの味噌汁という家庭も多いようです。

遠足の特徴は、六年生が新一年生とペアを組んで、マンツーマンで新入生の面倒をみることです。六年生が一年生の希望に合わせて行動し、終日面倒をみることは、学院の校訓「人になれ奉仕せよ」の実践として、貴重な体験の一つです。ここでの関わりは、卒業後も互いに思い出や絆として残る豊かな交わりになります。

また、二年前から一年生と六年生だけでなく、全学年で構成される小グループを作り、グループごとに海の公園まで出かけるようになりました。その結果、縦割りで交わりを深める貴重な機会ともなっています。現地では、潮干狩りとともに、砂浜での砂の芸術展やビーチフラッグスなどグループごとの遊びが企画



[Mutsuura Primary School]

Welcome field trip for first grade students

For the last 20 years, Mutsuura Elementary School has held a school-wide field trip to Umino-Kouen (Seaside Park) to welcome first grade students. During the field trip, each sixth grader is paired with one first grader whom they are to accompany and help during the trip. This provides sixth grade students with a precious experience that is in line with the school motto "Be a man and serve the world." The interaction they experience during the trip will remain as a good memory long after they leave the school and help them to build lasting friendships. A new activity program for the school trip was started two years ago. Now all students, including those from grades other than the sixth and the first, gather and are divided into small groups to participate in the trip. The program includes various activities such as clam digging at the beach, sand art exhibition, and beach flags. The trip is designed and carried out with the sincere wish that it will be a fruitful experience for all the students.

本校は、自然の豊かな金沢区にあり、おおかで家庭的な雰囲気をもつ学校です。そんなわたしたちにとって、歓迎遠足は学校を代表する行事の一つにもなっています。遠足の主題聖句「互いに親切にし、あわれみの心で接し、神がキリストによってあなたがたをゆるしてくださったようにゆるしあいなさい。」(エペソ4:32)が、この遠足の体験を通して子どもたちの中で豊かな実を結ぶように、祈りつつ取り組んでいます。

六浦幼稚園

主任 鈴木直江

子どものアトリエ

「せ んせい、見て見て！」「わあ、たくさんグルグル描けたねえ」「うん、これ卵でね、かいじゅうが出てくるんだよ。それでね…」子どもが描いた二本の線から次々お話が生まれ、それはその子の表現になっていきます。私たちは、園生活の中で子どもたちが描いたり作ったりする造形活動を子どもたちの表現活動の一つと捉えています。出来上がった形だけではなく、活動の中で子どもたちが何を思い表しているのか(表したいのか)を大切に子どもたちに関わっています。そして、子どもたちの表しを読み取る事、又それに共感して子どもの表しをより豊かなものにしていきたいと願って過ごしているのです。そこで、幼稚園は課外活動とし



て「子どものアトリエ」を始める事にしました。単なる課外という捉えではなく、そこで経験した事が普段の保育の中にも活かされ、他の子どもたちにも影響し合つてより豊かな表現に繋がってほしいと考えました。また、アトリエの指導は子どもたちの生活を知っている私たちが大切に行っている事を十分理解してくださる方にしようと考え、大学の人間発達学科の照沼先生にお願いしました。現在、毎週月曜日の保育後1時間15名〜20名の子どもたちが「子どものアトリエ」で自分の表現活動を楽しんでいます。そこで出会う素材は、時には絵の具であったり土粘土であったり糊であったり…と様々。お迎えの時に、保護者の方に活動している時の過程やお子さんの表情をお伝えして子どもたちが楽しんでいた世界を分かち合うひとときを大切にしています。

た、アトリエの指導は子どもたちの生活を知っている私たちが大切に行っている事を十分理解してくださる方にしようと考え、大学の人間発達学科の照沼先生にお願いしました。現在、毎週月曜日の保育後1時間15名〜20名の子どもたちが「子どものアトリエ」で自分の表現活動を楽しんでいます。そこで出会う素材は、時には絵の具であったり土粘土であったり糊であったり…と様々。お迎えの時に、保護者の方に活動している時の過程やお子さんの表情をお伝えして子どもたちが楽しんでいた世界を分かち合うひとときを大切にしています。



[Mutsuura Kindergarten] Children's Atelier

The kindergarten started the "Children's Atelier" as an extracurricular program, hoping that the children's experience in this program will serve as a beneficial tool to enrich the regular activities in the kindergarten and favorably influence other children to foster their artistic skills. We have selected as the instructor for the atelier a person who is familiar with the children's daily activities and understands our kindergarten's values well. Currently on Mondays, 15 to 20 children enjoy expressing themselves at the atelier for one hour after regular kindergarten activities. Materials they use vary from paints to clay and paste. We also provide the parents with opportunities to see and share their children's experience at the atelier.

野庭幼稚園

主事 小高千恵

年長児のお泊り会

年 長児は毎年、葉山にある相洋閣に1泊します。宿には滑り台付きのプールがあり、目の前が海のスエキなどです。

お泊り会のために、3つのグループ活動が4月より始まります。公園の清掃活動、老人ホーム訪問、畑のお世話、クッキングなど日々の生活の中にちりばめられています。メンバーとの話し合いでは、自分の意見を伝え、時には泣いたり、時には泣いて我を通すなど経験する中で、自分を知ることと相手を受け入れることを学びます。グループカラーのTシャツは色が同じでも、絞り染めのデザインにオリジナルティが光ります。

雨でも、地下鉄とJ・Rと京急バスを乗り継いでいくため、雨が降るとレインコートを着て散歩に出かけたりもします。保護者の方の協力を得て電車に乗る経験も重ねます。



楽しい思い出だけに終わらないように、子ども一人ひとりの課題に沿って、少し悩む状況を提供していきます。困った時、悩んだ時は自分が頼りですが、助けを求める勇気も育てなくてはなりません。



信頼できる仲間がいることは大きな支えとなるからです。ダイバーシティ(多様性)の中に私たちは生きており、聖書の中の「普遍的な愛」がお互いを結びます。幼い頃より一緒に育っていく意味がここにあります。

[Noba Kindergarten]

A sleepover program for the five-year-old children

We have an annual one-night sleepover program for the five-year-old class. The program takes place at Soyokaku in Hayama, a location with beautiful views of the sea and a swimming pool.

In preparation for this program, there are some group activities starting in April, including the cleaning of a park, a visit to an elderly nursing home, field work, and cooking. The children are also given an opportunity to ride a train as a part of these activities.

This program aims not only to let children have an enjoyable experience but also to help them learn from difficult situations. When facing a difficulty or problem, they need to overcome it on their own but, at the same time, they also need to have the courage to ask for help. Trustworthy friends are a great support in such a situation.

01 牛鍋元祖 太田なわのれん



Olive Map Ohta-nawanoren

"Ohta-nawanoren", located in Yokohama, is a restaurant that has been serving gyu-nabe (now popularly called sukiyaki) since the Meiji era. The dish is still cooked in the same way as the founder of the restaurant invented it. Roughly chopped first-class Yamagata beef mixed with the restaurant's secret miso is simmered in a pan before being served. The succulent juice from the beef is perfectly combined with the rich taste of the secret miso, resulting in a taste that has attracted many people over many years.

明治時代 西洋化の波が押し寄せた港町横浜で、文明開化の象徴となった牛鍋。その歴史的な味を現代に伝える続ける店が、牛鍋の元祖「太田なわのれん」です。最高級の山形牛を豪快にぶつ切りにして、秘伝の味噌に絡めながら、浅い鉄鍋でグツグツ煮込む調理法は、明治元年（1868年）創業当時のまま。噛むほどにシラッと染み出る肉汁と絶妙に絡みあう味噌のコク。時を越えて、多くの人を魅了してきた至福の味です。



青井佳子
(六浦中・高 24期生)



住所: 横浜市中区末吉町1-15
TEL: 045-261-0636
営業時間: [火-金] 17:00-22:00
[土・日・祭日] 12:00-15:00, 17:00-21:00
定休日: 月曜・第3日曜

OliveMap

Kanto Gakuin Since 1884

関東学院卒業生が奏でる贅沢な時間——。
素敵なお店で極上のひとときを見つけて下さい。

02 葉山 日影茶屋



Olive Map Hayama Hikage Chaya

Hikage Chaya, the little teahouse in the shade, was opened in Hayama during the Edo period. The restaurant is in a historic building with atmosphere and its garden is equally beautiful throughout the year. The specialties of the restaurant are kaiseki-ryori (traditional Japanese multi-course haute cuisine) and obento (boxed lunch), which use mainly fish and seafood freshly caught from Sagami Bay as well as locally grown seasonal vegetables. Its courtyard is opened in the summer to hold "Hikage Festival" where visitors can enjoy yatai (food stalls) and yomise (night stalls). Hikage Chaya is well-loved by the local people.

江戸時代創業 葉山の老舗「日影茶屋」。風情ある建物に、四季折々の美しさを見せる庭。時が静かに流れるなかで、相模湾で獲れた新鮮な魚介を中心に、地場産の旬の野菜を使った会席料理、お弁当が堪能できます。席は椅子席、個室、離れ、大広間があり、一人ひとりに合わせて心のこもったおもてなしを受けられます。夏は中庭を開放し、屋台や夜店が楽しめる「日影祭り」を開催。地元を愛し、地元の人に愛される名店へぜひ。



角田庄右衛門
(六浦中・高 24期生)



住所: 三浦郡葉山町堀内16 TEL: 046-875-0014
営業時間: 11:30-15:30 (L.O. 14:30) (お椅子席)
17:00-22:00 (L.O. 21:00) (お椅子席)
12:00-15:30 (L.O. 13:30) (個室)
17:00-22:00 (L.O. 19:30) (個室)
定休日: 水曜定休・祝日の場合は営業

携帯サイト 「OliveMap」 エリア拡大中

■OliveMap

<関東学院同窓生店舗紹介携帯サイト>

関東学院では、創立125周年記念事業企画として、関東学院同窓生相互の交流・発展に寄与するため、関東学院の同窓生並びに学生・生徒・児童・園児の保護者の皆様を中心としたステークホルダーの方々の経営する店舗を紹介する携帯サイト「OliveMap」を公開しています。

同サイトでは、横浜の中心街区ならびに鎌倉・逗子・葉山の飲食店や小売店を、同窓生の声と共にご紹介しています。同窓生同士の会合や忘年会、またはお買い物の際などに是非ご利用ください。

当サイトに関するお問い合わせ及び店舗紹介の掲載を希望される同窓生の方は、下記のアドレスまでご連絡ください。(なお、当サイトへの店舗紹介につきましては、本学院のもとで地域や業種・業態等を確認させて頂いた上で、無料で掲載させて頂いております。)

◆学校法人 関東学院 OliveMap事務局

・Mail address map@kanto-gakuin.ac.jp

・必要事項 氏名(ふりがな)
出身学校名
卒業年度
店舗名
店舗住所
日中のご連絡先
店舗ホームページURL

OliveMap Cell phone site providing information on shops run by Kanto Gakuin graduates

As one of its 125th anniversary projects, Kanto Gakuin started a cell phone site "OliveMap," which provides information on shops that are run mainly by its graduates, parents of students from the kindergartens through university and other supporters of Kanto Gakuin. It aims to facilitate interaction among the graduates as well as further their personal development. The information available on the site includes details of eating establishments and retail stores in Yokohama, Kamakura and Zushi-Hayama, along with comments from KGU's alumni.

1 携帯電話のInternetアドレス欄に下記のOliveMapのURLを入力または、下図のQRコードよりOliveMapトップページにアクセスしてください。

◆OliveMap: <http://map.kanto-gakuin.ac.jp>
(携帯電話からアクセスしてください)



2 地域から同窓生のお店を探す場合には、「★エリアから探す」をクリック、店名からお店を探す場合には、「★お店から探す」をクリックしてください。



3 上部に地図の表示された店舗選択ページが表示されますので、地図の下部に表示されたリストから、詳細情報を見たいお店を選んでクリックしてください。



4 選択したお店の店舗情報、紹介文、ギャラリー、同窓生情報、クーポン券などの詳細情報が表示されます。
お店の詳細な地図を表示したい場合には、[MAP] ボタンをクリックすると拡大可能なお店の地図が表示され、お電話で予約等を行いたい場合には、電話番号欄をクリックすると携帯電話から直接お店に電話することができます。

編集 後記

いつもご愛読ありがとうございます。
みなさまははじめまして。2010年4月に広報課へ異動しました千葉です。学報には、皆様のご子息や卒業生が活躍している記事をふんだんに取り入れていきますので、よろしくお願ひ致します。
今回の学報には一つのテーマがあります。カバーストリーでも紹介している「海」と「産学共同」です。材木座海岸でのマリンスポーツやビーチハウスプロジェクト、八景島のヨット。そして、横浜の崎陽軒や葉山のげんべい商店など地元企業とのコラボレーションも満載です。
新たな連載企画として昨年の関東学院創立125周年記念事業で誕生した「OliveMap」掲載店舗を紙面にて紹介していきます。是非直接お店へ足をお運び下さい。

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。

宛先 関東学院 法人事務局広報課 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-7006 E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

「がんばれ! 受験生サイト」 リニューアルオープン

関東学院大学の入試情報サイト「がんばれ! 受験生サイト」がリニューアル公開を始めました。関東学院大学をもっともっと知ってもらうために、教員や在学生の生の声を取り入れたコンテンツを今後更に拡充して行く予定ですので、是非ご利用ください。



<http://ao.kanto-gakuin.ac.jp>





学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 ☎045-786-7028(代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



古紙配合再生紙を
使用しています

25000